



アングル



全日本アユ釣り選手権優勝
土屋 直史さん(町震二・40歳)

釣り具メーカーが主催する第38回G杯争奪全日本アユ釣り選手権大会が、8月3日から5日まで、三重県紀和町の北山川で開催され、土屋直史さんが初優勝しました。当初は和歌山県の別の川で行われる予定でしたが、台風の影響で、直前になって会場が変更になりました。「私は深い川を得意としています。水深がある北山川に変更する

との連絡を受けたとき、もしかしたらと思いました。ゼッケン番号が12番で、台風も12号、何か運を感じました」と土屋さん。

アユ釣りとの出会いは高校生のころだそうです。「父親が飼っていたレース用の鳩が迷い込んだ先が小田原市内のおとりアユを扱う店で、その店主に教わりました」と話します。その後、一時遠ざかっていましたが、11年前に再開し、段々とのめり込んでいくことに。「夜間、警備員の仕事をし、昼間は川の中にいます。シーズン中は家に帰らないことも…。二人の息子にもアユ釣りを教えています。妻の理解と協力があってこそ」と家族への感謝を忘れません。困ったことは何かとの問いかけに「寝る時間がないことです」と苦笑い。

サラリーマンが全国大会で優勝することは珍しいそうです。「弟子にしてくださいという方が増えました。プロ転向の誘惑もありますが、生活がありますから」と当面は二足のわらじという土屋さん。今後の活躍に目が離せません。来年の目標は全日本チャンピオン大会で好成绩を収めること。アユ釣りの極意を尋ねると、「川底の石を知ること、おとりを手なずけることです」としばらく考えた後に話してくれました。



文化センターナビ

11月の休館日／
4日(火)・10日(月)・17日(月)・25日(火) ☎ 993-9300

宝くじ文化公演 富良野GROUP公演2015冬 「夜想曲—ノクターン—」

好評発売中!!

ドラマ「北の国から」などで知られる倉本聰さんが作・演出を務めた演劇を開催します。

【あらすじ】

東日本大震災から数年後の3月11日。原発事故避難区域となった海に程近い一軒家に、津波で二人の娘を亡くした中年の男と若い新聞記者が忍び込む。原発事故から時間が止まったままのその家で、同じように津波で父親を亡くした彫刻家の女と出会い、互いの震災体験を語り合う。

と き／平成27年2月27日(金) 19時～

開場▶ 18時30分

料 金／大人 3,000円

高校生以下 1,000円

※宝くじの助成により、特別料金となっています。

◆富良野GROUP裾野初公演のサポーター募集中!



富士の裾野を彩る

富士山資料館

江戸時代のすそのと小田原藩

江戸時代、村は幕府・旗本・大名・寺社などの領地でした。明治10年ごろに編集された「旧高田領取調帳」によると、幕末のころは現在市がある場所に幕府領はなく、9カ村3,094石が旗本領、16カ村4,003石が大名領でした。大名領のうち、3カ村674石が沼津藩水野家領、13カ村3,329石が小田原藩大久保家領でした。小田原藩領13カ村は今の地区で言うと、麦塚・平松・二ツ屋・茶畑・稲荷・公文名・佐野・石脇・岩波・下和田・今里・御宿・須山にあたります。

小田原の藩主は当初が大久保、それから阿部、稲葉へと変遷しますが、貞享3年(1686)に大久保加賀守忠朝が10万3,000石の大名として入部以来、忠増ただまさ・忠方ただおき・忠興ただおき・忠由ただよし・忠顕ただあき・忠真ただまこと・忠愨ただせい・忠礼ただり・忠良ただりと続き、明治4年(1871)11月の廃藩置県まで大久保氏が藩主の座に就いていました。小田原藩の領地は、相模国・駿河国・伊豆国しもつけ・下野国・播磨国・河内国にわたり、村数は336カ村に及んでいました。